

1. 競技規則について

本大会は、2017年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 競技場、練習場及び練習について

- (1) 本陸上競技場（メイン）は、IAAF(国際陸連)Class-2に認証されており、レーン幅(1.22m)やマーキングは国際規格である。スタートラインやリレーゾーンのマーキングは国内仕様と異なるため注意すること。
- (2) 練習は審判員の指示に従い安全面に十分注意すること。投てき練習は、監督・コーチ等が必ず付き添うこと。
- (3) 本競技場と補助競技場での練習については次のとおり可能である。投てき種目は全て補助競技場を使用すること。

両競技場の開場 / 閉場時刻		8:30 / 18:00	7:30 / 18:00	7:00 / 17:00	
場所・制限等		使用区域等	前日 25日(金)	1日目 26日(土)	2日目 27日(日)
本(メイン)競技場 日本陸連第1種 IAAF Class-2 ・投てき練習禁止 ・フィールド可能	1~2レーン 中長距離	走高跳 : Bゾーン 走幅跳 : メイン側	7:30~8:45 棒高跳 7:45~9:10	7:00~9:00	
	3~6レーン 短距離 7~9レーン ハードル	9:30~11:00, 12:30~15:00 三段跳 : メイン側 11:00~12:30, 15:00~17:30 棒高跳 : バック側	競技終了後~17:30		
補助(サブ)競技場 日本陸連第3種 ・フィールドは投てき専用とする	1~2レーン 中長距離	9:00~17:30 砲丸投 9:30~17:30 円盤投 9:30~11:30	7:30~17:30 M走高跳 8:00~ 9:20 M走幅跳 8:00~10:10 砲丸投 8:00~17:30 W円盤投 9:00~11:00	7:00~16:00 Wやり投 7:30~ 8:45 M砲丸投 7:30~ 8:50 三段跳 7:30~ 8:55	
	3~6レーン 短距離 7~8レーン ハードル	13:30~15:15 やり投 11:30~13:30 15:15~17:00	W砲丸投 9:00~11:00 W走高跳 9:40~12:20 W走幅跳 10:30~17:30 M円盤投 11:30~13:10 三段跳 14:00~17:30 やり投 15:30~17:30	Mやり投 9:00~10:30 W砲丸投 9:00~11:30 W走幅跳 9:10~11:25	
雨天走路 ・一方走行とする	入口→100mS 方向へ走行	使用可能	出場競技者のみ可能 応援等は不可	出場競技者のみ可能 応援等は不可	

3. 競技者案内所 (TIC) について

競技者案内所(TIC)を競技場正面入口1階ロビーに置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、公認記録証(1件500円)の受付、抗議と上訴の受付、クレーム、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラムの記載ミス(氏名、フリガナ、学年、所属等)の取り扱い(プログラム巻末の訂正用紙を提出する)。
- (3) ポールの輸送の受付。
- (4) プログラム(1冊700円)、日本高専記録集2015・2016年度版(各1冊700円)の販売等。

4. 競技用靴について(競技規則第143条2・3・4・5・6参照)

スパイクピンの数は11本以内とし、長さは9mm以内、走高跳・やり投は12mm以内とする。

5. 競技者の招集方法について

- (1) 招集所は100mスタート地点側の器具庫内に設ける。
- (2) 各種目の招集時刻は、競技開始時刻を基準として下記のとおりとする。

	トラック競技	棒高跳	棒高跳以外のフィールド競技
招集開始時刻	30分前	80分前	60分前
招集完了時刻	20分前	60分前	40分前

- (3) 招集は招集所で、招集完了時刻までに競技者係の点呼を受ける。その際、ナンバーカード、競技用靴、腰ナンバー標識(6.(2)の該当競技者のみ)、バックの中身、及び商標等の確認と点検を受けること。
- (4) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に競技者係に備え付けの「2種目同時出場届」を提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (5) 棄権をする場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を

棄権したものとみなす。

- (6) 競技場内への入退場は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行う。また、出場する競技者以外は競技場内に入らないこと。
- (7) リレーのオーダー用紙は、予選、決勝とも招集完了時刻 60 分前までに招集所競技者係へ提出すること。

6. ナンバーカードについて（競技規則第 143 条 7・8・9・10 を厳守）

- (1) ナンバーカードは折らずに胸と背部に確実に固定すること（跳躍競技については胸または背部どちらかでもよい）。
- (2)トラック競技の出場者（リレー競技は第 4 走者のみ）は、腰ナンバー標識を使用する。腰ナンバー標識はパンツ右側の上部やや後ろに付けること。また、3000m 以上の競技者は、胸と背に同じナンバーカードを付けること。これらのカードは招集の際に競技者係で受け取り、フィニッシュ後にその場で返却すること。カードを受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること。

7. 競技方法について

- (1)トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順はプログラム記載のとおりとする。
- (2)トラック競技の計時はすべて写真判定装置を使用する。
- (3)スタートの合図は英語で行う。（「 On your marks 」、 「 Set 」）
- (4)不正スタートについては、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする（規則 162 条 7 参照）。また、400m（4×400m を含む）までのトラック種目ではスタート・インフォメーション・システムを用いる。
- (5)ハードルの高さとしてき種目の重さについては以下のとおりである。

ハードル種目の高さ	男子	110mH 1.067m	400mH 0.914m
	女子	100mH 0.838m	
投てき種目の重さ	男子	砲丸投 6.000kg	円盤投 1.750kg やり投 0.800kg
	女子	砲丸投 4.000kg	円盤投 1.000kg やり投 0.600kg

- (6)短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も同じレーン（曲走路）を走ること。
- (7)予選のあるトラック競技の決勝のレーン順は、招集所の掲示板にて発表する。
- (8)男子 5000m 競走では、気象状況に応じて、バックストレート側に給水を用意する。
- (9)リレー競技について（競技規則第 170 条）
 - 1)メンバー編成は、予選・決勝とも 2 名はリレーに申し込んでいる競技者でなければならない。それ以外の 2 名はプログラムに記載されている競技者であれば出場できる。決勝では 2 人以内に限り交代できる。
 - 2)4×100m の第 2、3、4 走者が使用する粘着テープ（最大 50mm×400mm のマーカー）は、各地点の出発係から受け取る。これ以外のマーカーを置くことは許されない。
 - 3)男子 4×400m の第 3、4 走者は審判員の指示に従い、前走者が第 3 コーナーのフラッグを通過した順に、内側より並んで待機する。その後この順序を維持し、バトンを受けるまで入れ替わることは認められない。違反した場合は、そのチームを失格とする。
 - 4)女子 4×100m については、同一校・同一キャンパス以外のチームは決勝に進出できない。
- (10)フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- (11)走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、優勝が決まって最後の 1 人となるまでは以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更する場合もある。

種目	練習の高さ	1	2	3	4	以降
男子走高跳	1m70/任意	1m80	1m85	1m90	1m95	以降 3cm ずつ
女子走高跳	1m30/任意	1m35	1m40	1m45	1m50	以降 3cm ずつ
男子棒高跳	3m30/任意	3m40	3m50	3m60	3m70	以降 10cm ずつ

※第 1 位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。

- (12)男女走幅跳、男子三段跳はメイン側 1 ピットで実施する。
- (13)男子三段跳の踏切板は砂場から 12m の地点に設置する。ただし、天候などの状況によって、変更する場合がある。
- (14)男子砲丸投と円盤投の記録公認については、高校・U20 規格を使用するため、2017 年 12 月 31 日現在で 19 歳を超える競技者の記録は公認されない。但し、日本高専記録及び大会記録は認めるものとする。
- (15)競技者がトイレ等で競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。

8. 競技用器具について

- (1)競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし棒高跳用ポールは、個人

所有のものを使用できる。

- (2) 投てき用具については、公表された競技場備え付け用具リストにないものは、持ち込みを認める。持ち込み希望者は、当該種目の競技開始40分前までに100m スタート側器具庫内で検査を受けること。ただし、検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとし、競技終了後に担当競技役員がフィニッシュ側器具庫内で返却する。競技中に破損が生じても主催者は一切の責任を負わない。
- (3) フィールド競技で、助走路に使用できるマーカーは主催者が用意したものを2個まで、サークルからの投てき種目では1個置くことができる。個人の所有物は使用できない。

9. 競技者に対する助力について（競技規則第144条）

- (1) 競技者は、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することはできない。（競技規則第144条3.(b)）
- (2) コーチ等からの助言は競技場区域外のコーチングエリアのみとする。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材（スマートフォン・ビデオカメラ等）を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなす。
- (3) 雨天走路は出場競技者のみが使用できる。監督・コーチ等の立ち入りは禁止する。また、この場所での応援等は禁止する。

10. 抗議と上訴について

抗議と上告は競技規則第146条により行うこと。競技の結果または競技実施及び競技の行為に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内、次のラウンドがある場合は15分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人がTICに口頭で申し出ること。問題が生じた場合には先ず各地区の専門委員に相談すること。

11. 表彰について

各種目の1位から3位の競技者には賞状とメダルを、4位から8位の競技者には賞状を授与する。入賞した競技者（代理可）は、競技終了後直ちに表彰を行うので、正面玄関ポーチの表彰控え室に集合し、表彰係の指示に従うこと。表彰時の服装はユニフォーム（気温が低い場合等は上半身のみでも可）が望ましい。

12. その他

- (1) 競技結果の正式発表は、スクリーン並びにアナウンスで行う。また正面玄関入口右側に掲示するが、各校への配付は行わない。Web上にも速報を掲載する。
- (2) 競技中の負傷については医務室にて応急処置を行うが、その後の処置は各校の責任で行うこと。
- (3) 競技場内通路及びメインスタンドでの集団の連呼応援は禁止する。部旗、横断幕等の掲出は、メインスタンドとサイドスタンド、バックスタンドの最前面の柵以外は可能である。
- (4) テント設営については、メインスタンド以外は可能である。
- (5) 各校の場所取りについては8月25日（金）開場以降可能である。更衣室及び雨天練習場での場所取りは禁止する。必要以上の面積を確保することがないように、参加各校が平等に競技に臨めるよう配慮する。
- (6) ゴミは配付されたゴミ袋に入れ、最終日にまとめて正面玄関入口掲示板横の軽トラックの荷台へ置くこと。注文した弁当の空き箱は正面玄関入口左側の引き取り場所へまとめて置くこと。
- (7) 出場競技者の関係者並びに報道各社を除き、競技場内、スタンド、補助競技場等でのビデオ、写真撮影は禁止とする。また、下記についてご協力をお願いします。

◆競技者の人権保護の観点から、写真・ビデオ撮影について、次のとおりご協力をお願いします◆

1. 保護者および競技者本人の了解がない撮影を禁止します。ご関係の皆様には「撮影許可」証を発行します。許可証をご希望の方は、TIC横にて受付をお願いします。各高専には監督会議にて2枚ずつ発行します。
2. 観客席での撮影禁止エリアは次のとおりです。【撮影禁止】のカードとテープでエリアを区画します。許可証を持参の方もこのエリアでの撮影は禁止します。
 - ◎各種目のスタート後方
 - ◎走高跳、走幅跳、三段跳、棒高跳の助走後方・着地前方
 - ◎走高跳マットに向かった正面（クリアランス動作中）
3. 「競技者等に著しく迷惑をかける行為である」と主催者が判断した場合は、速やかに警察および関係機関に連絡します。